

エコフィード茨城協議会 発足に当たって

国立環境研究所
循環型社会・廃棄物研究センター
副センター長 井上雄三

エコフィード茨城協議会 設立の背景

- 食品廃棄物(循環資源)の適正なりサイクルシステムの構築
- 環境低負荷農業システムの構築
- 国際的な飼料高騰
- 新たなエコフィードシステムの構築

エコフィード茨城協議会 設立の意義

- 捨てられていた食品廃棄物（食品循環資源）を適正に利用する（食品リサイクル法への対応）
- 食料自給率の向上
- 国際的な食料や飼料高騰への対策
- 茨城県は畜産事業、特に養豚事業は全国3位の、養豚県であり、地域産業である畜産事業を活性化させること
- 新しい形の地域循環システムを構築する

地域循環システム形成

食品循環資源のリサイクル、求められるものは何か？

テーマ：地域メリットを如何に引き出すか！

地域メリット ➡ 「環境に配慮した地域」のブランド化やイメージ

関係者が集う「場」を作り、知恵を出し合い、
新たな食品リサイクル事業を構築する

いばらき食品リサイクル研究会

(H19,8発足)



○目的

1. 様々な主体による情報交換・事業提案の場として問題発掘、循環事業の企画支援
2. 会員(事業者・農家など)：食品残さに関する相談，事業提案
3. NIES：課題の抽出・整理，循環事業成立条件の分析・提示
→ 事業の企画提案



設立総会(H19,8,20)

○成果

1. 会員50名、6分科会活動：「バイオ燃料」「堆肥化」「飼料化」など
2. 事業提案：「干しいも残さの豚飼料化」，「無排水型畜舎システム(バイオベッド)」
3. 既存事業の情報収集：「食品残さ飼料化」，「無通気積み置き型堆肥化」

干し芋循環資源の豚飼料化事業の経緯と事業内容

経緯

会員からの相談

合同分科会(平成19年11月)
 (株)ひたちなかテクノセンターより、ひたちなか地区の干し芋残さの環境問題解決方法について相談を受けた。
 ⇒ 事業化に向けた検討を開始

現地視察

堆肥化分科会(平成20年2月)
 ひたちなか地区の干し芋残渣の現地調査を実施。
 ⇒ 飼料化が有望との方向性を確認

事業化の検討・提案

リーダー会議(平成20年2~4月)
 研究会の企画事業とし、飼料化事業担当者を選任。干し芋残渣の飼料化に向けた具体的な事業内容の検討。
 ⇒ エコフィード茨城協議会の提案

事業化の準備

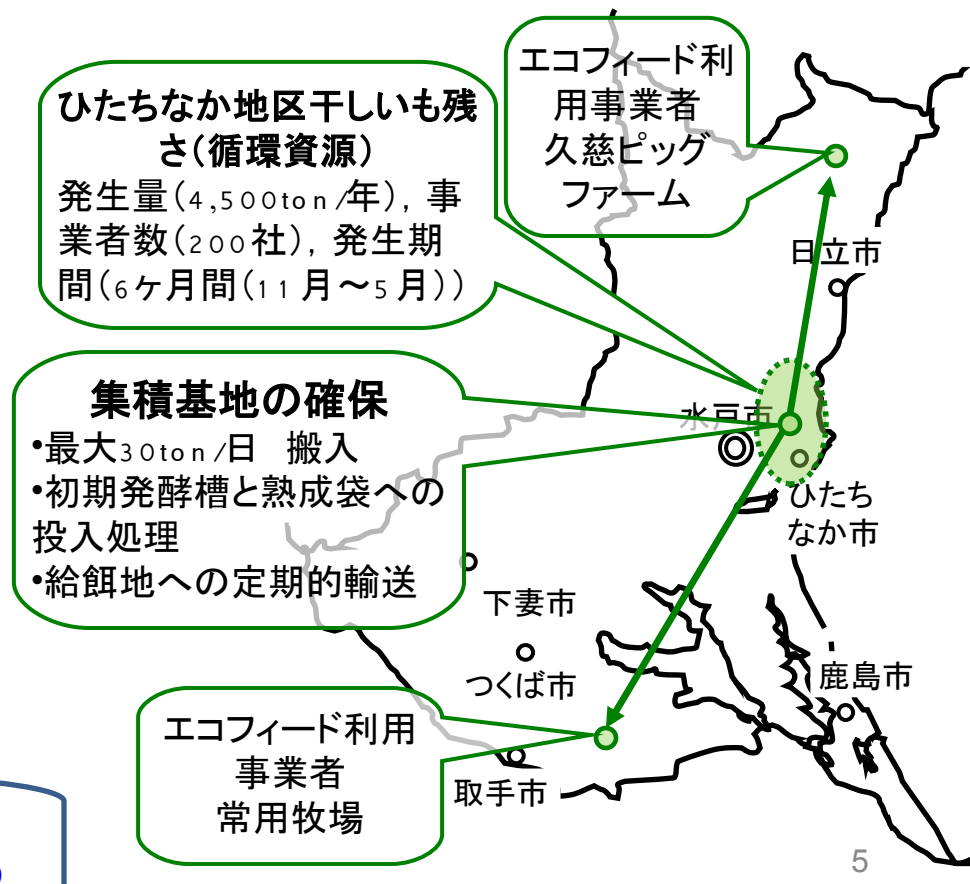
設立委員会(平成20年5月~)
 関係者の調整を図り、エコフィード茨城協議会の設立を提案。
 ⇒ 今秋から、干し芋残さの飼料化を開始予定

干しいも残さの耕地処分による悪臭問題と畜産飼料高騰問題の解決 → 地域メリット(干しいも産業と養豚産業) → ビジネスモデルの構築

事業内容

エコフィード事業として農水省エコフィード事業(未利用

- ・低利用資源の飼料化促進事業)の補助事業確定
- ・茨城エコフィード協議会設立(H20年8月1日設立総会)
- ・約3,000ton/年をエコフィード(リキッド)として生産, 養豚事業者(当面2社)が利用



エコフィード茨城協議会（運営体制と組織）

